



STSプロジェクト佐賀支局たより

佐賀やまと

第35号 2018年5月

発行：株式会社エステーエスプロジェクト 佐賀支局
〒849-0937 佐賀県佐賀市鍋島2-4-5 I.T.R 101
TEL. 0952-20-3720 FAX. 0952-20-3721



STSプロジェクト代表

はん だ かずのり
半田 和憲

地球環境蘇生セミナー 佐賀

2018年4月21日(土)

「再生と貢献」

「夢と希望あふれる未来のために
貢献の形の実現」

4月とは思えない夏日となつた当日、会場入り口やステージ上には、ハーモニークウオーター(以下HW)を浴びて育つた花木が飾られ、来場者を出迎えました。

参加特典としてプレゼントされた日本酒「無濾過純米 和一郎」。今年は仕込む樽に半導体塗料添加剤入りの塗料を三度塗り、麹菌と酵母が活性する場「環境」をバイジョンアップし、生命が歓ぶ日本酒として登場しました。(詳細は秋田支局「すいこう第13号」参照)

セミナーでは半田代表のロマン溢れる講演が行われました。ここでは、一部内容を紹介します。

◆微生物の生命化現象

の方向へ、もう一度チャンネルを巻き戻すためには、エマルジョン(物質の乳化)とエネルギー、酵母菌・アミラーゼや酵素などの加水分解酵素が必要。そうすると水に戻る。腐敗の方向にいくと、もう一度合成の科学を行わなければいけない。この役割を担うのがSTS科学の複合発酵である。複合発酵する時に酸素を嫌う嫌気性と、酸素を好む好気性に分かれるが、それぞれの役割がある。

好気性分解では乳酸菌、酵母菌が主役。乳酸菌と酵母菌は、ビタミンとアミノ酸とミネラルを作る。嫌気性は水素による分解といっても過言ではない。

また、水素を使った嫌気発酵は酵素を作る。この様な発酵分解は、農業の土の中でも同様におきている。土中の10cmより下には、酸素は届いて

いない。今の農業では、田畑の代掻きや天地返しをして、風や太陽を浴び、土を殺菌しながら酸素を与える。好気性の微生物が住むことができるという考えだが、代掻き後、10cm前後の水張りをすると、土中には酸素はない。

酸素の少ない土には嫌気性の微生物が住み、好気性菌による発酵ができない。従って、化学肥料を使用しなければならなくなる。化学肥料は水に溶け、低分子の結合になり吸収するが、土壌の発酵システムは存在しないため、団粒化構造ができない。すなわち、毎年化学肥料を使用しなければ作物がとれないという悪循環がおきている。

通常は、水に酸素を入れようとしても0.4%が限界であるが、STSの科学では、溶存酸素300%を超える革命的な技術がある。

私達も含め、動物の70%は水で活かされている。人間も水耕栽培。また、腸内細菌によって細胞や臓器やすべてがコントロールされている。微生物によって発酵させた米とHW、不純物を混ぜずに酒を作ると、腸内細菌の働きで分解酵素を作り出す。これを促すのが「和一郎」である。これが自然界で発生した「百薬の長」といわれる科学的根拠である。

◆再生の科学とは

万能細胞のプログラムは、人間が核をいじって作るのでは



～セミナー会場の様子～

ない。遺伝子を引き出す万能細胞のプログラムは、すべての細胞に存在する。「再生科学」がより具体的に、細胞は再生科学の一つである。

骨で血液を作るのは最終処理で、7割のしくみは腸内細菌が行っている。酵素を作る腸内細菌は、一つの菌が一つの酵素しか作れない。人間の腸内で5500種の酵素が作られ、生命活動が維持されている。

この科学には、再生のテクノロジ（技術）がびっしりと詰まっている。その理論を応用して作ったのが「HW」であり、蘇生エネルギー情報水という名称の由来がここにある。

◆次世代

エネルギーの可能性

ウランの燃えカスがプルトニウムである。核分裂された物質を元に戻す事で安

定化。

元に戻すとは、失った電子を取り寄せ、微生物合成のブリーディングサイクルで再生できる。この理論を応用し、使用済みウラン、プルトニウムをエマルジョンにするとベータ崩壊が減る。また、プルサーマル

（燃料をリサイクルする手法）も可能になる。放射能を解決できない現状の中、代替エネルギーでこの膨張する経済を補うことは難しい。STS科学にこそ、次世代エネルギーの貢献の形がある。

◆運動参加の

在り方

地球や人間の大半を占める水を変えることで、環境蘇生に大きく貢献できる。HWによる再生の科学は、次世代に夢のある未来をつなぐフアクターである。これを腑に落として、勇気を持

って運動に参加してほしい。

◆セミナーの終わりに「貢献の形」の冒頭の文章を朗読しました。環境蘇生を実現する技術や、水をどのように使用していくのか、その方向性がとても重要です。

「さて、あなたの貢献の形みつきりましたか」
誰もが始められる、この運動を大きく広げていきましよう。

代表交流会より

佐賀支局にて

4月22日（日）

「和一郎」の酒粕で作った甘酒で乾杯し、交流会スタート。セミナーではなかなか聞けない話が出るのも交流会の醍醐味です。前日の補習授業にもなった代表のお話を一部紹介します。

植物も自然界も動物よりも植物の方が遺伝子ゲノムの引き出しが多い。また自然界の中で、一番循環に反応できるのは腸内フローラ。土の中は腸内と同じだからこそ、生命が飲む水を使わなければいけない。害虫管理や、台風対策のため、品種改良した事による問題点も多い。そうしてできた作物にはおしべがなく、中性になり受粉で

きず、種の保存ができないのだ。稲や植物の生理生態という自然のプログラムから外れている。外れたことにより農薬、化学肥料を使ってしまう。だからこそ正しい知識を学ぶ必要がある。

人間は35の元素でできており、植物も入れると41の元素が必要。HWは、水の隙間に生命というエネルギーと、情報のプログラムを記憶形状している。HWを多量に飲用してもチャポチャポしないのは、人間の細胞が細胞水と捉え、異物反応しないという信号の現れであり、生態水のプログラムである。

まず、生活の中にHWを取り入れ、信じて使い、応用し、流していこう。それが環境蘇生に繋がる一歩となる。



～交流会の様子～

<<佐賀支局5月行事予定>>

5/ 8 (火)	佐賀セミナー復習	13:30～
5/13 (日)	休日営業・日曜日・交流会	
5/24 (木)	キャンペーン製品体験	13:30～
5/29 (火)	新しい方の学習会	13:30～

<編集後記>

近代文明への進化と引き換えに、残ってしまった様々な環境問題。原因の一つである、私達の「心」と日々の「生活」を見つめ、未来の子供達へ、安心して暮らせる地球を残していきましょう。

